

## 『情報社会学概論』出版記念シンポジウム 開催報告

## A Report of Publication Symposium for “An Introduction to Infoscionomics”

庄司 昌彦 (しょうじ まさひこ・Masahiko SHOJI)

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 講師/主任研究員

## 1. 書籍とシンポジウムの概要

本シンポジウムは、情報社会学会の研究成果として『情報社会学概論』（NTT 出版）が出版されたことを記念し、2011年1月20日に国際大学グローバル・コミュニケーション・センターにて開催された。当日は、編著者の公文俊平会長のサインとシリアルナンバーが入った本を限定100冊作成し、参加者にテキストとして配布した。

本書は情報社会を「近代社会の進化」の中で位置づけ、情報社会とはどのような社会であるのか、またそれを捉える学問的枠組みにはどのようなものが考えられるのか、といった議論を掲載している。特に、情報社会になって初めて生まれた科学の革命的発展（「大文字の科学革命」「設計科学の台頭」（吉田））、コンピューターによるシミュレーションや可視化（マンデルブロ、ウォルフラム）、ブラックスワン現象（非・正規分布型事象の重要性）などのテーマを取り上げて具体的に考察している。

本書の目次は次のとおりである。

## ■序 情報社会学への招待

公文俊平（多摩大学情報社会学研究所長）

## ■第1部 情報社会学の基礎

- ・第1章：情報社会の科学革命—吉田民人の「大文字の第2次科学革命」論の紹介  
公文俊平
- ・第2章：事物の分布についての新しい見方—特にベキ分布について  
飛田武幸（名古屋大学名誉教授） シイ シイ（愛知県立大学情報科学部）

## ■第2部 情報社会学のさまざまな方法

- ・第3章：経済物理学—複雑さに挑む科学から情報社会へのアプローチ  
高安秀樹（ソニーコンピュータサイエンス研究所・明治大学）
- ・第4章：情報社会と世界システム—近代化の定位  
山内康英（多摩大学情報社会学研究所）
- ・第5章：社会実験とシミュレーション手法  
服部正太（構造計画研究所）
- ・第6章：インターネット—情報社会のインフラストラクチャ  
村井純（慶應義塾大学環境情報学部）

## ■第3部 情報社会の情報基盤

- ・第7章：創発のプラットフォーム  
國領二郎（慶應義塾大学総合政策学部長）
- ・第8章：ソーシャルメディア—情報社会の情報プラットフォーム  
佐々木俊尚（ITジャーナリスト）

## 2. 講演

著者のうち公文氏、飛田氏、村井氏、服部氏、山内氏が著書の内容に基づいた講演を行った。

公文氏は、近代における、国家（政治）化、産業（経済）化に続く三つ目の波として情報（社会）化を捉えている。情報化とは、知識（通識）を社会的に（ソーシャルに）創造し、通有していく時代である。公文氏は、このことの説明をするために映画『ソーシャルネットワーク』を例として挙げた。そして、この映画では登場人物

がポリティカルアニマル、エコノミックアニマルとして描かれているが、Facebook の創設者マーク・ザッカーバーグらには、社会的・社会的なものに突き動かされる「ソーシャルアニマル」としての側面があったはずであり、そこが描かれていないと指摘した。

また論壇においては「大きな物語」はもう存在しないとされているが、それは国家化と産業化については当てはまるだろうが、情報化についてはこれから生まれてくる可能性があるのではないかと、公文氏は述べた。そして新たな物語を生み出すうえで注目すべき存在として、「二人のヒロキ」すなわち病児保育事業を行う社会企業家であり論客としても知られる駒崎弘樹氏と、批評家・小説家であり企業経営者でもある東浩紀氏を挙げた。駒崎氏は共働を通じて喜びを追求する智民としての生き方を体現しており、またそれを企業として存立させようとしている。東氏は新たな知を創造しソーシャルネットワーク等を通じて広く共有させるとともに、出版事業を自ら手掛け、事業としてのイノベーションをも起こそうとしている。この二人の「智業家」の生き方は新しい「大きな物語」の一部を成している。

最後に講演した山内氏は、情報社会学の基本的な認識枠組みである「主体と場の相互作用」からは、さまざまな現象が創発するが、そこにはべき乗分布などのパターンがあると指摘し、そうしたパターンの研究に取り組む必要性を述べた。会場に集まった参加者とのやりとりでは、数学やシミュレーションなどを導入しながら情報社会をどう認識していくのか、という分野横断的な議論が活発に行われた。

### 3. おわりに

シンポジウムの様子は、Twitter や USTREAM の動画として記録された。これらのデータや写真などは、情報社会学会の Facebook ページで紹介されている。

本シンポジウムは、NTT 出版および国際大学グローバルコミュニケーションセンターの協力を得て開催された。改めてこの場で感謝を申し上げたい。